

平成四年

日本思想史関係研究文献要目

凡 例

- 一、本要目には、平成四年に発行乃至発表された日本思想史関係の単行本並びに雑誌・紀要論文を収録した。
- 一、本要目には、日本思想史関係の学術的な研究を選択収録することを原則としたが、一般読者向けのものも適宜収めた。
- 一、右のように選択した文献を、I 単行本目録 II 雑誌・紀要論文目録の二部に分け、次のように配列した。
I IIとも、文献をその内容によって、総雑・古代・中世・近世・近代に分け、さらにそれぞれに属する思想史関係研究文献を、一般・学問道德教育方面・宗教方面・文芸美術芸能方面・政治社会経済方面・その他の項目順に分類配列した。
- 一、単行本は、書名・著者名・発行所名の順、論文は、題名・執筆者名・掲載雑誌紀要巻号数の順に記載した。
- 一、本要目の作成には、東北大学文学部日本思想史学研究室所属の助手・大学院学生があたった。
- 一、日本思想史という学問の性格上から、研究文献の選択に迷うことが多く、短時間間に作成したためもあって、文献の選択や配列に不備な点があるものと考えられる。大方の御教示をお願いする。

I 単行本目録

総 雑

日本仏教史—思想史としての
のアプローチ

末木 文美士 新潮社

蘇るムラの神々

櫻井 治男 大明堂

熊野修験（日本歴史叢書四
八）

宮家 準 吉川弘文館

都市と劇場—中近世の鎮魂
・遊楽・権力（平凡社選
書一四一）

小笠原 恭子 平凡社

国家と宗教—日本思想史論
集

源 了圓編 思文閣出版

型と日本文化

源 了圓編 創文社

天皇制国家の統合と支配

馬原鉄男編 文理閣

日本文化論叢（佐々木孝二
教授退官記念）

弘前大学人文学部
日本文化コース編 弘前大学人文学部

古 代

最澄教学の研究

田村 晃祐 春秋社

伝教大師伝の研究

佐伯 有清 吉川弘文館

古代国家の歴史と伝承

黛 弘道編 〃

中国礼法と日本律令制

池田 温編 東方書店

中 世

梅澤伊勢三先生追悼 記紀
論集

続群書類従完成会

古事記研究文献目録 単行
書編

古事記学会編 国書刊行会

日本中世の社会と仏教

平 雅行 塙 書 房

日本中世禅林の儒学

久須本 文雄 山喜房仏書林

武士と文士の中世史

五味 文彦 東京大学出版会

興教大師寛鑊研究

興教大師研究論
集編集委員会編 春秋社

源空教団成立の研究

吉田 清 名著出版

弁長・隆寛（浄土仏教の思
想一〇）

梶原 隆善 講 談 社

証空・一遍（浄土仏教の思
想一一）

上田 良準 〃

道元 新稿版（人物叢書）

竹内 道雄 吉川弘文館

鎌倉の仏教

石井 進編 有 隣 堂

中世京都文化の周縁

川嶋 将生 思文閣出版

戦国大名と天皇—室町幕府
の解体と王権の逆襲
(Fukutake books 28)

今谷 明 福武書店

近 世

信長と天皇—中世的權威に
挑む霸王

今谷 明 講 談 社

徳川初期キリシタン史研究
増補版
五野井 隆 史
吉川 弘文館

江戸時代とは何か―日本史
上の近世と近代
尾藤 正 英
岩波書店

林羅山・(附)林鵝峰(叢
書・日本の思想家二)
宇野 茂 彦
明德出版社

山崎闇斎―日本朱子学と垂
加神道
高島 元 洋
ぺりかん社

徂徠学の史的研究
今中 寛 司
思文閣出版

鬼神論―儒家知識人のデ
ィスクール
子安 宣 邦
福武書店

本居宣長
川口 浩
勁草書房

江戸時代の経済思想
実学史研究 八
実学資料研究会編
思文閣出版

懐徳堂―New History
テッオ・ナジタ著
岩波書店

史料が語る大塩事件と天保
改革
中瀬寿一 編
晃洋書房

緒方洪庵の蘭学
石田 純 郎
思文閣出版

在村蘭学の展開
田崎 哲朗 編
〃

洋学資料による日本文化史
の研究 五
吉備洋学資料研
究会

幕末洋学史の研究
原 平 三
新人物往来社

幕末民衆思想の研究―幕末
国学と民衆宗教
桂島 宣 弘
文理閣

佐藤一斎全集三・四
岡田 武彦 監修
明德出版社

近 代

近代日本社会と思想
後藤 靖 編
吉川 弘文館

近代日本の形成と宗教問題
中央大学人文科
学研究所 編
中央大学出版部

明治維新と天皇制
田 中 彰
吉川 弘文館

忠誠と反逆
丸 山 真 男
筑摩書房

近代天皇像の形成
安 丸 良 夫
岩波書店

近代天皇制と宗教的権威
国学院大学日本
文化研究所 編
同朋舎出版

近代化と伝統的民衆世界
―転換期における民衆運動
とその思想
鶴 卷 孝 雄
東京大学出版会

教派神道と近代日本―天理
教の史的考察
大 谷 渡
東方出版

日本資本主義と民間神道
―諏訪製糸業と諏訪大社信
仰
河 村 望
多賀出版

日本近代教育の思想史研究
―国際化の思想系譜
沖 田 行 司
日本図書センター

考証福沢諭吉 上・下
富 田 正 文
岩波書店

植木枝盛―民権青年の自我
表現
米 原 謙
中央公論社(中
公新書)

徳富蘇峰と国民新聞
有 山 輝 雄
吉川 弘文館

河上肇研究
住 谷 一 彦
未 来 社

柳田民俗学と天皇制
岩 本 由 輝
吉川 弘文館

南島イデオロギーの発生
―柳田国男と植民地主義
村 井 紀
福武書店

日本近代思想大系 七法
と秩序

石井 紫朗 校注
水林 彪

岩波書店

日本近代思想大系 別巻

日本近代思想大系
編集部編

近世補遺

江戸の無意識—都市空間の
民俗学

桜井 進

講談社

総 雑

日本思想における国家と宗
教

源 了 圓

源了圓・玉懸博
之編『国家と宗
教』(思文閣出
版)

型と日本文化

〃

源了圓編『型
と日本文化』
神道宗教一四六

神仏習合と神仏隔離をめぐ
って(シンポジウム)

嵯峨井 淳建
林 藤 真
佐藤 正人
三橋 真
金 児 暁 嗣
黒田 俊 夫

日本人の宗教観と死生観

黒田 俊 夫

真宗学 八六
紀要(日本大
精神文化研)
二二三

天皇像の変容—歴史心理学
的考察の試み

湯 浅 泰 雄

国際学レビューI
(桜美林大) 四

自然と知—科学の受容と日
本ないしは東アジア的自
然観・精神風土の解明
(一)

松 丸 寿 雄

教養諸学研究
(独協大) 二六―二

季節に來訪する神—まれび
と論・異人論再考

諏訪 春 雄

思想 八二四

熊野権現の伝播と民俗

宮家 準

紀要(民俗学研)
一六

北奥羽の民間伝承と縁起の
構想

佐々木 孝 二

文経論叢(弘前
大) 人文
二七―三

摩多羅神の系譜

山田 雄 司

芸能史研究
一一八

障害者差別の歴史的背景—
普遍宗教としての仏教と
のかかわりの中で

藤本 佳 男

龍谷史壇
九九・一〇〇

比較思想研究の動向

峰島 旭 雄 他

比較思想研究一八

櫻井勝之進著『伊勢神宮の
祖型と展開』

牟礼 仁

芸林 四一―二

古 代

天号と日本国号の成立年
代

高森 明 勅

神道宗教一四七

古代宇宙観さまざま

奥田 光 郎

研究論集(関西
外国語大) 五五

〈鎮魂〉・〈天皇霊〉を考
える—「鎮魂齋戸祭」の
祝詞を方法として

飯田 勇

思想 八二〇

死の神話学と新嘗祭

Gary L. Ebersole

現代思想
二〇―四

古代日本における「儀礼と
神話」考—大嘗祭と宮中鎮
魂祭の原像

渡辺 勝 義

宗教研究
六六―三

大嘗祭の原初形態に関する一考察	水谷昌義	博物館学年報 (同志社大) 二四	韓国における日本文化の研究	崔吉城	現代思想 二〇一四
智二感覚と天皇制—古代王権と〈所有〉あるいは大嘗祭の論理	三谷邦明	論叢(横浜市大) 四三—一	天孫降臨神話について	安藤美紀	史林 七五—一
律令国家の確立と大嘗祭	中嶋宏子	神道宗教一四七	記紀神話の成立と穀霊信仰	泉谷康夫	中山修一先生喜寿記念会編『長岡京古文化論叢Ⅱ』(三星出版)
齋王卜定と即位・大嘗祭	榎村寛之	延喜式研究 六	ヤマトタケルとワカタケル大王—英雄時代論争と国家形成史をめぐって	鬼頭清明	紀要(東洋大院) 二八
日本古代の神事と仏事—大嘗祭と御齋会を中心に	黒崎輝人	源了圓・玉懸博之編『国家と宗教』(思文閣出版)	『古事記』という歴史叙述—歌謡のある伝承と歌謡に よらない伝承と	藤井貞和	現代思想 二〇一四
中国の郊祀と日本の大嘗祭—神々の座をめぐって	佐野公治	中国 社会と文化 七	国家形成の二つの層—古事記の分析から	大沢真幸	現代思想 二〇一四・五・六
古代喪葬儀礼の研究—奈良時代における天皇喪葬儀礼の変遷	渡辺真弓	神道史研究 四〇—二	『古事記』のオホクニヌシ神話に見える脱皮モチーフと再生	吉田敦彦	現代思想 二〇一四
伊勢神宮式年遷宮の起源	森田悌	延喜式研究 七	古事記体系の成立について—序説(一)—「削偽定実」の問題を中心に	吉田義孝	紀要(岐阜女子大) 二一
律令天皇制における「天」と「日」の観念—天之御大神・高御産日神と天照大御神	水林彪	思想 八一—六	危機意識としての古事記(二)—兄妹始祖神話と兄妹の恋愛の物語	工藤隆	紀要(大東文化大 人文科学) 三〇
祀りを行うひとびとの物語—イザナキ・イザナミ神話を讀む	佐藤正英	現代思想 二〇—四	『古事記』—その虚像と実像 研究史の批判的検討	水林彪	奈良歴史通信 三六・三七
「天浮橋」をめぐって	神野志隆光	国語と国文学 六九—八	古代王権の〈侵犯〉伝承—『古事記』中・下巻を中心に	西山良平	『長岡京古文化論叢Ⅱ』
素盞鳴神神格考	上田賢治	神道史研究 四〇—三	天武天皇と古事記神話の構成	松前健	紀要(奈良大) 二〇
国譲り神話と王権の論理	魯成煥	現代思想 二〇—四			

古事記天皇伝承の中の「出雲(系)」
山崎正之 古事記年報三四

古事記上巻「神參拾伍神」考
西宮一民 万葉 一四二

古事記上巻、岐美二神共に生める「嶋・神參拾伍神」考
毛利正守 万葉 一四四

『古事記』から『日本書紀』へ
黒須重彦 紀要(大東文化大 人文科学) 三〇

日本の伝承記述に見る二つのエクリチュール―『古事記』と『日本書紀』の文体比較の試み
Francois Mace 現代思想 二〇一四

『日本書紀』巻九「神功紀」の構成と内容について
加茂正典 研究紀要(京都精華学園) 三〇

皇極紀における常世神伝承の意義
安川芳樹 日本文学論究 五一

出雲神話形成の基盤
神田典城 黛弘道編『古代国家の歴史と伝承』(吉川弘文館)

『出雲国風土記』に関する一考察―その基本的性格の検討
有富雪子 出雲古代史研究 二

常陸国風土記と常世の国の思想
志田詢一 常総の歴史一〇

『常陸国風土記』と倭武天皇
高橋辰久 文学研究 七六

『風土記』にあらわれた空間意識の研究
永藤靖 紀要(明治大 人文科学研) 三〇

『風土記』と昔話

『新撰亀相記』所載の鎮火祭起源の伝承について

仁徳天皇聖帝伝承の形成―漢代儒教思想との関連から

祈年祭・月次祭の本質

桓武天皇の天神郊祀について(二)

玉串考

殺牛馬信仰に関する文献史料の再検討―日本古代の動物犠牲について

宣命における「天」と「諸聖」

東アジアと古代の日本―道教の問題を中心に

御巫考

古代禅師の性格に関する一考察

飛鳥の須弥山と齋槻

紫香樂と良弁

日向国分寺の成立

山城国男山における古代「神奈備」信仰

河合隼雄

工藤浩

須貝美香

古川淳一

安井良三

鎌田純一

桜井秀雄

八重樫直比古

上田正昭

野口剛

松永博司

今泉隆雄

森田悌

小田富士雄

神英雄

日本研究 七

国文学研究(早稲田大 国文学会) 一〇七

上代文学 六九

ヒストリア

一三四

『長岡京古文化論叢II』

大倉山論集三二

信濃 四四―四

『国家と宗教』

静岡県史研究八

古代文化 四四―八

歴史研究 三八・三九

研究年報(東北大 文) 四一

続日本紀研究 二八〇

Museum 496

龍谷史壇 九九・一〇〇

平安中期における祭祀制の展開	岡田 莊司	大倉山論集三三二	台密の三密論—仏の三密を中心	大久保 良俊	天台学報 三四
平安京近郊の御霊会—二つの今宮を中心として	五島 邦治	古代文化 四四—一二	日本天台における有相三密方便説—「兼存有相説」の解釈をめぐって	窪田 哲正	日本仏教学年報 五七
日本法相宗の形成	末木 文美士	仏教学 三二二	伝教大師受『道邃和尚伝道文』(延暦寺藏重文)の真偽—裏書の検討	野本 覚成	天台学報 三四
日本唯識における「普為乗教」説について—奈良・平安期	後藤 康夫	印度学仏教学研究 四〇—一二	五台山成仏した延暦寺戒覚—「渡宋記」の伝えた仏跡 荒廃説のゆくえ	荒槇 純隆	〃
日本霊異記と続日本紀	小泉 道	万葉 一四四	興教大師における往生について—「五輪九字明秘密釈」と「一期大要秘密集」との相違を中心として	吉田 宏哲	紀要(仏教文化学会) 一
天台法華宗の開創にかかわる氏族—「為菩薩僧」の提唱を中心として	村中 祐生	紀要(仏教文化学会) 一	源信の釈教歌について—法華経経旨歌を中心に	北尾 隆心	印度学仏教学研究 四〇—一二
最澄の教団形成と世俗制度	中川 修	龍谷史壇 九九・一〇〇	『拾遺往生伝』にみる女性観小考	原田 信之	論及日本文学 五七
最澄の上表文と唐僧玄奘	佐伯 有清	成城文芸二四一	王朝の落日—古代社会と新仏教	五条 小枝子	紀要(広島女子大文) 二七
『守護国界章』における妙法釈	桑谷 祐顕	天台学報 三四	『都督納言願文集』にみる女性の願い	下出 積與	古代文化 四四—五
『守護国界章』における四教の扱いをめぐって	池田 晃隆	〃	日本選述偽経について	千歳 竜彦	千里山文学論集 四七
嵯峨天皇と最澄・空海—下最澄と天台本覚思想—二二(完)	渡辺 三男	駒沢国文 二九		吉原 浩人	国文学解釈と鑑賞 五七—一二
『叡山大師伝』の研究の現状とその問題点の整理	栗田 勇	文芸 三一—一		服部 法照	紀要(仏教文化学会) 一
八〇九世紀における東国小宇宙の宗教と思想—最澄東国巡錫の意義と背景を導きとして	熊倉 浩靖	産業研究 二七—二			
『真言所立三身問答』について	水上文義	天台学報 三四			

上代日本仏教における誓願について―造寺造像伝承再考

石井 公成

印度学仏教学研究 四〇―二

天平一年「皇后宮之維摩講仏前唱歌」をめぐる若干の考察

井村 哲夫

吉井敏編『記紀万葉論叢』(塙書房)

宇佐八幡の仏教帰依

田村 圓澄

『長岡京古文化論叢Ⅱ』

八幡神成立史序論

飯沼 賢司

大分県地方史 一四六

縁起から見た草創期宇佐の八幡宮

中野 幡能

神道古典研究 一四

宇佐に於ける原初信仰

遠 日出典

神道史研究 四〇―四

宇佐御許山信仰に関する踏査と小考

〃

博物館学年報 (同志社大) 二四

道昌をめぐる諸問題

追塩 千尋

南都仏教 六七

平安後半期に於ける天台浄土教の諸相―特に四天王寺を中心にして

宇野 茂樹

紀要(大阪商大商業史研)二

平安時代初期の薬師修法

渡辺 宏治

人文論究 四二―一

諸国一宮成立期に関する一考察―国衙と一宮との関係を中心

日隈 正守

九州史学一〇四

古代政治思想一斑

安部 猛

日本社会史研究 三一

神祇令における法継受の問題

菊池 克美

池田温編『中国礼法と日本律令制』(東方書店)

宣命私論

尾崎 暢 映

学苑 六三四

律令制成立期の領域観の特質

大浦 元彦

古代史研究一

古代王権における三太子問題について

笠井 昌昭

文化史学 四八

王朝都市の王権と(色好み)

西山 良平

日本史研究 三六四

古系譜にみる「オヤーク」観と祖先祭祀―「家」の非血縁原理の原型を求めて

義江 明子

研究報告(歴博) 四一

古代文学に現れた南・北の世界像―近江の海と熊野の山

永藤 靖

文芸研究 六八

風土記―古代文学における芸能性―口誦詩章とその背後

西村 亨

芸能 三四―六

古事記―神の来臨と野の芸能

高梨 一美

〃

万葉集の天皇の名号について

山田 英雄

国語国文 六一―一二

万葉のころ―意識の深層思索

市川 深

人文自然科学論集(東京経済大) 八九

境界の場所(中)―死者のうたの発生、そして挽歌へ

居駒 永幸

教養論集(明治大) 二五一

人麻呂関係歌における神々の展開

遠山 一郎

国語と国文学 六九―一〇

『日本霊異記』不孝子説話と孟蘭盆会上巻第二三縁を中心として

中村 史

立命館文学 五二六

諸国正月齋会と大安寺釈迦
悔過をめぐる説話―『日本
霊異記』下巻第二五縁・
上巻第三二縁を中心とし
て

中村史 論究日本文学 五六

『日本霊異記』行基関連説
話小考―水神零落譚試論

藪敏晴 説話文学研究 二七

聖君問答と中国六朝論争
―日本霊異記下巻三九縁考

山口敦史 上代文学 六八

説話と史実の間―『日本霊
異記』の場合

千歳竜彦 史泉 七五

琴のゆくえ―楽統継承譚の
方法あるいは光源氏物語
の思想的位相

上原作和 日本文学 四一九

源氏物語と音楽

清水好子 国文学 六九

『源氏物語』と住吉・八幡
信仰の伝承―明石一族の物
語をめぐる

名波弘彰 文芸言語研究 二二

仏典のレトリックと和歌の
自然観

上垣外憲一 日本研究 七

勅撰集の自然の歌と美意識
―雨

甲斐知恵子 学苑 六三六

実像から虚像へ―安倍晴明
説話の変遷

花田志野 人文論叢(二松
学舎大) 四九

陰陽道と文芸

山下克明 国文学解釈と鑑
賞 五七―一二

『今昔物語集』における和
歌の機能―都と地方の秩序
をめぐる

佐藤幸男 説話文学研究 二七

『大鏡』―法会の時空

小峯和明 国文学解釈と鑑
賞 五七―一二

『中右記』の匡房批判を
めぐって

松本昭彦 国語国文 六一―一〇

歌舞音曲と鬼

志田諄一 紀要(茨城キリ
スト教大) 二六

平安貴族の疾病認識と治療
法―万寿二年の赤斑瘡流行
を手懸りに

谷口美樹 日本史研究 三六四

菊地康明編『律令制祭祀論
考』

榎村寛之 日本史研究 三五九

菊地康明編『律令制祭祀論
考』

菊地照夫 歴史学研究 六三七

山中裕著『平安時代の古記
録と貴族文化』

詫間直樹 史学雑誌 一〇一―八

中世

王権伝承二題

桜井好朗

説話伝承学会編
『説話と宗教』
(桜楓社)

中世初期の「武威」と「武
力」―「兵」説話が語るも
の

関幸彦

日本歴史五三二

渡来僧の世紀

村井章介

石井進編『都と
鄙の中世史』(吉
川弘文館)

中世触穢思想再考

勝田至

日本史研究 三五六

中世賤民論
実朝の文化空間

吉田徳夫

部落解放闘争六
三浦古文化五一

『平家物語』に見える中世
武門の倫理(二)

児玉正幸

密教文化一七九

法然と親鸞の念仏—信心との関わりについて	紅 煤 英 顕	印度学仏教学研究 四〇—二	蓮如上人と『御文章』	林 智 康	真宗学 八六
親鸞書簡と異義	林 智 康	〃	近江の蓮如—戦国期本願寺教団形成史論・序説	遠 藤 一	龍谷史壇 九九・一〇〇
信巻と『涅槃経』—逆説撰取釈の現病品引文をめぐって	岡 宏	〃	蓮如上人における現実世界の意義	小 池 俊 章	龍谷教学 二七
仏教思想史における親鸞の無我伝承—仏教における無我伝承と有我伝承	二 葉 憲 香	龍谷史壇 九九・一〇〇	蓮如上人の「五重の義」について	稲 田 静 真	〃
後鳥羽院と親鸞	平 松 令 三	論集(竜谷大学) 四四〇	蓮如における宗教と政治の関係	気 多 雅 子	紀要(金沢大 教育・人文・社会・教育科学) 四一
『親鸞聖人御消息集』の解上の問題点—「くせごと」	佐々木 景	宗学院論集六四	本願寺蓮如名号本尊と戦国社会—十字名号を素材として	早 島 有 毅	紀要(京都市歴史資料館) 一〇
『教行信証』構造論序説	井 上 円	真宗研究 三六	覚如上人の本願寺開創と蓮如上人の本願寺再興についての一考察	武 田 賢 壽	紀要(同朋学園・仏教文化研) 一四
親鸞聖人と『華嚴経』	中 村 薫	〃	証空の事相教旨	長 谷 川 是 修	日本仏教学年報 五七
親鸞における仮の意義	岩 崎 智 寧	〃	一遍智真の修行について	岡 本 貞 雄	印度学仏教学研究 四〇—二
親鸞における信の構造—還相回向の思想的意義	山 崎 龍 明	紀要(武蔵野女子大) 二七	一遍における救済の構造とその本質	松 下 みどり	紀要(お茶の水女子大 人文科学) 四五
真の報仏土—『教行信証』	三 明 智 彰	親鸞教学 五九	道元禅師とクザリヌスの信について—比較思想的研究	笠 井 貞	宗学研究(駒沢大 曹洞宗学研) 三四
・『真仏土巻』の『涅槃経』	安 藤 章 仁	真宗学 八五	道元禅師の仏・菩薩・祖の定義について	石 井 清 純	宗学研究 三四
・『浄土論』・『浄土論註』の文を中心として	普 賢 晃 寿	〃	道元禅師の修証観—禅師の批判の内容を通して	務 台 孝 尚	〃
親鸞の行信論と覚如・存覚の立場	村 上 宗 博	真宗研究 三六			
存覚の神祇観	〃	親鸞教学 五九			
存覚の法華問答	〃	〃			

『正法眼蔵』にみられる外道の語義について

峰岸孝哉

宗学研究 三四

道元禅師の遺偈と鎌倉下向の捏造説について

中世古祥道

〃

『眼蔵』のさす外道の制多とは

川村昭光

〃

道元禅と浄土教思想―臨終正念と『悲華経』の引用をめぐって

石川力山

印度学仏教学研究 四〇―二

道元と中古天台本覚思想―『正法眼蔵法華転法華』を通路として

池田魯参

仏教学 三二

日蓮における観心法門の有相化

庵谷行亨

日本仏教学年報 五七

日蓮における「師」について―道元との比較を通して

平井智親

印度学仏教学研究 四〇―二

日蓮上人と人法本尊問題

関慈謙

〃

日蓮晩年における謗法克服の課題

渡辺宝陽

〃

日蓮と国土

市川浩史

源了圓・玉懸博之共編『国家と宗教』

『愚迷発心集』について―貞慶等の信仰起請文説

城福雅伸

宗教研究 六五―四

貞慶の仏教思想の特異性―発心・加被・祈請の重視と観法の易行化を中心として

〃

印度学仏教学研究 四〇―二

中世仏教におけるハ性―興福寺奏状「剩破戒為宗」を手掛かりとして

遠藤一

歴史評論五一二

奈良西大寺末寺帳考―中世の末寺を中心に

松尾剛次

三浦古文化五一

西大寺叡尊関連年譜(一)

吉原健雄

日本思想史研究 二四

俊乗坊重源上人と宋文化

平岡定海

龍谷史壇 九九・一〇〇

中世顕密仏教の国家観

佐藤弘夫

『国家と宗教』

護国と清浄―天龍寺創建と夢窓疎石

菅基久子

〃

『増鏡』の皇位継承観―三種の神器をめぐって

佐藤勢紀子

〃

『増鏡』―「王法仏法相依論」

深津睦夫

国文学解釈と鑑賞 五七―一二

「仏法隠没・令法久住」―覚憲のハ危機意識Vに即して

市川浩史

紀要(群馬県立女子大) 一二

異国降伏・聖朝安穩―「八幡愚童訓」によって

〃

神道及び神道史 五〇

中世における神宮宗廟観の成立と展開

高橋美由紀

『国家と宗教』

中世神道における国家と宗教―慈遍の日本神国観をめぐって

玉懸博之

〃

神仏習合の神社の実態―吉田山神宮寺・大宝八幡宮・高田権現を例に

内山純子

茨城史林 一六

八幡縁起と中世日本紀―「百合若大臣」の世界から

阿部泰郎

現代思想 二〇―四

祈りの護符『熊野牛玉宝印』

嶋津宣史

神道宗教一四九

熊野牛玉の一考察

嶋津宣史

神道研究集録 一一一

能の女面における「まなざし」の神道史的理解

筒井曜子

神道史研究 四〇―一二

陰陽道と護身剣・破敵剣

山下克明

青山史学 一三

応永・永享期における陰陽道の展開―『看聞日記』を中心として

柳原敏昭

人文学科論集 (鹿兒島大) 三五

霊験者の史的考察―役行者・安倍清明・吉田兼俱

山上伊豆母

帝塚山論集七五

『元亨釈書』の先行史書観

直林不退

龍谷史壇 九九・一〇〇

『沙石集』より見た鎌倉仏教の風俗史的考察

鶴岡静夫

風俗 三一―二

『雑談集』における天台中世寺院の童と兒

渡辺守順

天台学報 三四

寺院縁起と聖徳太子建立伝承―大和放光寺・平隆寺を中心

土谷恵

史学雑誌 一〇―一二

中世南都の釈迦信仰

小野一之

中央史学 一五

宇都宮氏の浄土信仰

富村孝文

紀要(琉球大法文) 史学・地理 三五

柳酒屋について―室町期京都の酒屋とその法華信仰

中西随功

西山学報 四〇

中世農民のアイデンティティと悪人観受容について

河内將芳

仏教史研究二九

「夜行」と「横行」―百鬼夜行の見える八都市・続攷

田中貴子

国語と国文学 六九―七五

『官地論』の思想

大桑 斉

結果の作法―常陸三村寺結界石と称名寺結界絵図

松尾剛次

高沢裕一編『北陸社会の歴史』(能登印刷) 日本歴史五三四

風流の系譜

長江信之

研究紀要(桐朋学園大) 一八

説話の奥行を探る

高橋昌明

Libellus of 中世文学 三七

九条家の舍利講と和歌

谷知子

定家の時代誌

本地物と人神―中国三層宇宙観と日本の中世的世界像

五味文彦

芸能史研究 一二七

「タケミナカタ神敗走」の意味と『諏訪の本地』(下)

諏訪春雄

研究論集(関西外国語大) 五六

明恵説話の変容―『古今著聞集』の明恵説話を中心

野村卓美

国語国文 六一―一一

明恵の説話受容―明恵と『能恵法師絵詞』をめぐって

菅 基久子

国学院雑誌 九三―九五

『夢記』を読む―夢を紡ぐ人々、明恵とその高弟たち

菅 基久子

国文学の解釈と教材の研究 三七―七

西行における「花」の位相

菅 基久子

日本思想史研究 二四

西行の数奇	西沢美仁	国文学 解釈と 教材の研究 三七―七	日本中世の都市祭礼と共同 体	脇田晴子	比較都市史研究 一一―一
熊野考―花山院と小栗	阿部泰郎	現代思想 二〇―七	武家の「首都」鎌倉の成立 ―將軍御所と鶴岡八幡宮と を中心	松尾剛次	『都と鄙の中世 史』
高野山―『高野物語』の系 譜	〃	国文学 解釈と 教材の研究 三七―七	東国武士団の「社会」と鎌 倉幕府―「もののふの道」 ―「つわもの道」展開試 論	鈴木国弘	研究紀要(日本 大 人文研) 四三
高野山の女人禁制(上)(下)	日野西真定	説話文学研究 二七・二八	戦国期日光山の動向	皆川義孝	史学論集(駒沢 大) 二二
『平家物語』「剣巻」の △カタリ▽―正統性の神話 が崩壊するとき	高木信	日本文学 四一―一二	戦国大名の領国経営とキリ シタン宗教政策―豊後・肥 前地域をめぐって	西村圭子	紀要(日本女子 大 文) 四一
橋のたもとのモノガタリ ―『宇治拾遺物語』序文と 宇治の「宝蔵伝説」	深沢徹	日本史研究 三六四	鎌倉大仏の造立	上横手雅敬	龍谷史壇 九九・一〇〇
『太平記』の正成伝承と『信 貴山縁起』	砂川博	日本文学 四一―三	中世の葬儀と喪服―黒から 白への回帰	益田美子	紀要(学習院女 子短大) 三〇
△絵語り▽の構図―『信貴 山縁起』／『信濃国聖事』	竹村信治	日本文学 四一―七	『禁秘抄』研究史覚書	所功	芸林 四一―三・四
天王寺―絵巻に見る聖空間	岩崎武夫	国文学 解釈と 教材の研究 三七―七	今堀太逸『神祇信仰の展開 と仏教』	広神清	日本思想史学 二四
京都の思想―洛中と洛外 の間	園田英弘	日本研究 七	黒田俊雄著『日本中世の社 会と宗教』	高橋昌明	日本史研究 三五五
熊野権現の伝播と民俗	宮家準	紀要(民俗学研) 一六	永村眞『中世東大寺の組織 と経営』	久野修義	歴史学研究 六三九
『宇治拾遺物語』と政治	浅見和彦	中世文学 三七	近世	姜在彦	コリアナ五一―一
中世地方寺院縁起の展開と 地域社会―笠寺縁起と熱田	上村喜久子	年報中世史研究 一七	日本の江戸儒学と姜沆	姜在彦	コリアナ五一―一

林羅山『本朝神社考』における『元享積書』の利用状況

森 瑞枝 神道研究集録 一一

林羅山の孔老問答解釈

大野 出 倫理学 一〇

近世初期の儒教と「礼」
—林家塾における積菜礼の
成立を中心として

高橋 章 則 玉懸博之・源了
圓編『国家と宗
教』

徳川期職分論の特質

佐久間 正 『国家と宗教』

熊沢蕃山の「孝」の世界観
と経世論

中村 泉 史泉 七五

熊沢蕃山と老荘思想

宮崎 道生 季刊日本思想史 三八

熊沢蕃山の経典解釈

広 常人 世

熊沢蕃山と西川如見—水土
(風土) 観を中心に

藤 原 暹

熊沢蕃山と山田方谷

朝 森 要

熊沢蕃山の女性観

池 田 仁 子

岡山藩出仕期の熊沢蕃山の
思想と行動

佐久間 正

伊藤仁斎の「情」的道德実
践論の構造

丸 谷 晃 一 思想 八二〇

佐藤直方と太平記読み

若 尾 政 希 日本思想史学 二四

荻生徂徠の思想構成

本 郷 隆 盛 日本思想史学 二四

「武士道」から「奉公人」
道へ—『葉隠』研究序説

小 池 喜 明

「松竹梅天和政要」に見え
る儒教思想

時野谷 滋 大倉山論集三一

徂徠学と宣長学の政治改革
論の歴史的展開—尾張藩天
明・寛政改革を中心に

岸 野 俊 彦 歴史評論五〇六

松平定信の神国思想—対外
危機意識の特質とその思
想史的考察

清 水 教 好 馬原鉄男・岩井
忠熊編『天皇制
国家の統合と支
配』

海保青陵書簡の考察—加賀
藩政との関わりについて

高 瀬 保 地方史研究 四二—六

富永仲基の学問と方法—著
述と思想

水 田 紀 久 国史学研究一八

「夢」と虚構の領域—懷徳
堂・中井履軒を中心に

宮 川 康 子 日本文学 四一

中井竹山あるいは懷徳堂の
黄金時代—盛期懷徳堂の学
問と教育あるいは中井竹
山・履軒の時代

森 脇 善 明 紀要(大阪商大
商業史研)二

田能村竹田—近世後期文人
社会における脱国家

高 橋 博 巳 『国家と宗教』

田能村竹田の隠退

文芸研究一三一

頼山陽の論詩絶句と袁枚の
論詩絶句

竹 村 則 行 文学研究(九州
大文) 八九

司馬江漢とその思想

岩 崎 允 胤 文化評論三八二

「理斎旅日記」—「理斎日新
録」と著者志賀理斎につい
て

鈴 木 圭 吾 研究紀要(東大
史料)

吉田芝溪の開荒活動と朱子
学批判の思想—上州渋川
—「在村文化」の研究

杉 仁 研究紀要(早稲
田実業学校) 二六

最上徳内とシーボルト

宮 崎 道 生 国史学 一四七

蠣崎波響の「夷酋列像」と最上徳内	磯崎康彦	洋学史研究 九	真木保臣関係未刊史料研究「異聞漫録(一)」	山口宗之	皇学館史学 六
江戸後期の海外認識と林述斎	荻生茂博	米沢史学 八	「異聞漫録(二)」真木保臣関係未刊史料研究	〃	史料(皇学館大史料編纂所報) 一二〇
帆足万里の「荘子解」について	連清吉	中国哲学論集 一八	日本の本草学と中国科学	上杉允彦	総合研究(高千穂商大) 五
安積良斎の思想―幕末官学派における俗と超俗	荻生茂博	『国家と宗教』	松本藩の藩学について	宮川清治	松本市史研究二
攘夷に向かう心―大橋訥庵の「転向」	中村安宏	〃	江戸時代における西洋学問分類の認識	吉田忠	研究報告(東北大) 二八
上甲振洋とその思想の帰結について―幕末一朱子学者の反政府思想の形成	三好昌文	瀬戸内海地域史研究 四	平賀源内と芒消―伊豆鈴木家資料を中心として	土井康弘	科学史研究 第二期 一八二
水戸学とその思想	岩崎允胤	論集(大阪経済法科大) 五〇	大槻磐溪についての一考察―海外情報と交友を視点として	武内真澄	日蘭学会会誌 一六一二
長州藩安政期軍政改革と洋学	小川亜弥子	瀬戸内海地域史研究 四	蘭学者柴田方庵と唐蘭風説書	長尾正憲	歴史手帖 二〇一四
横井小楠と幕末の福井藩―その「開国」と「公儀」を中心	李雲	論集(駒沢大外国語部) 三五	下野における蘭学の系譜	沼倉延幸	田崎哲郎編『在村蘭学』
「小楠堂詩草」註釈 二(一)横井小楠の「格知」について	内藤俊彦	法政理論 二五	蘭馨堂門人・鳥海松亭	菊地卓	〃
吉田松陰の意識に見る「教育実践」の性格―教育観の基底としての情的人間把握	川口雅昭	山口県地方史研究 六八	新瀉県における洋学の系譜	平野満	〃
幕末における在村儒学と主体形成―武蔵国秩父、若林嘉陵の事例	川村肇	教育学研究 五九―二	飯沼塾とその門人の動向	蒲原宏	〃
渡辺崋山日記「全楽堂日録」について(一)	小沢耕一	紀要(愛知大総合郷土研究所) 三七	美作在村蘭学概論	遠藤正治	〃
			在村の蘭学と地域医療の近代化―幕末から明治初年の長野県医界	下山純正	田崎哲郎編『在村蘭学の展開』
			宝暦・天明期長州藩文教政策と越氏塾	青木歳幸	研究論叢(山口大) 教育人文科学(四二) 一

幕末期長州藩の洋学と博習 小川 亜弥子 『実学史研究Ⅶ』

山口明倫館の教育—洋学史 的側面を中心にして // 紀要(教育学研究・中国四国教育学会) 三七

国学における「皇国」意識の展開と日常生活論 佐藤 孝敏 『国家と宗教』

荷田在満「白猿物語」の研究 森田 雅也 日本文芸研究 四四

契沖—自由な作品評価を成し得た学僧 古相 正美 国文学解釈と鑑賞 五七(三)

契沖の名所研究書に採歌された大嘗会和歌の研究 八木 意知男 女子大國文 一一一

真淵の「ますらを」考 原 雅子 江戸文学 七

『延喜式祝詞解』の一異本について—無窮会神習文庫本を中心として 本澤 雅史 神道古典研究 一四

賀茂真淵—尚古思想の鼓吹 小野 寛 国文学解釈と鑑賞 五七(三)

上田秋成の描いた女性 森田 喜郎 文学研究(日本文学研究会) 七五

日本書紀編纂をめぐる国学者の言説 宣長・秋成・信友 山下 久夫 『天皇制国家の統合と支配』

『源氏物語玉の小櫛』の出版事情について—本居宣長と松平康定との関係・交流(2)(3) 岡田 千昭 紀要(愛知学院大 教養) 三九—三・四〇—一

本居宣長—古典の本質を捉えようとする学風 百川 敬仁 国文学解釈と鑑賞 五七

本居宣長における「新法」と「先規」—国学的保守主義と経済的自由 小室 正紀 立教経済学研究 四五

本居宣長の主情主義的人間論 保井 温 立命館文学 五三二

反宣長の士・松原基について 岡田 千昭 紀要(愛知学院大 教養) 四〇—二

化政期国学の一断面—藤井高尚の国学における教化性の考察を中心に(上) 山中 芳和 研究集録(岡山 大 教育) 九〇

平田篤胤と佐藤信淵(上) 宮崎 道生 国学院雑誌 九三—四

平田篤胤と佐藤信淵(下) 宮崎 道生 国学院雑誌 九三—五

平田学研究序説—学問と学者を中心として 芳賀 登 紀要(東京家政学院大) 三二

維新前後の国学志向—「矢野玄道門人簿(稿)」の作成をめぐる 福井 款彦 神道史研究 四〇—一

近世における慈雲の思想史的境位 今井 淳 神道古典研究 一四

三河国内神名帳の解題 三橋 健 神道及び神道史 五〇

三河国内神名帳諸本の研究 // 紀要(国学院大) 三〇

猿投神社の修正会と三河国内神名帳の奉唱 // 国学院雑誌九三

日本思想史の中の安藤昌益 鈴木 正 社会科学論集(名古屋経大 市邨短大) 五四

安藤昌益の「互性」について

三品一博

同志社法学
二二三・二二四

安藤昌益と生き神信仰

萱沼紀子

江戸文学 九

安藤昌益の病氣論—身体・社会・自然

若尾政希

歴史学研究
六三九

延享期安藤昌益の思想—「博聞抜粹」の基礎的研究

〃

日本文化研究所
研究報告 二八

自然破壊と安藤昌益

西村嘉

八戸地域史二〇

昌益思想誕生の地としての八戸

安永寿延

〃

安藤昌益の新しい思想像

〃

〃

石門心学における「和論語」の受容—心学的徳育教化方法をめぐって

三宅守常

大倉山論集三一

「契フ論」政治思想的意義—安藤昌益における「公法」の思想

杉田聡

人文社会科学論
集 八一—三

石田梅岩と老荘思想

大野出

日本思想史学
二四

通俗道徳と「神国」「日本」—石門神学と富士講をめぐって

田尻祐一郎

『国家と宗教』

石田梅岩における「都」と「鄙」について

渡部武

紀要（跡見学園
女子大） 二五

尊徳研究ノート（六）—「万物知止論」と「空仁二名論稿」とに就いて

多田顕

経済論集（大東
文化大経済学
会） 五五

尊徳研究ノート（七）—「農家大道鏡」について

〃

経済論集（大東
文化大経済学
会） 五六

怪僧日乗について—信長の禁中奉行

荻野三七彦

日本歴史五二八

神龍院梵舜考—神仏兼帯の活動と豊国社創建

田辺建治郎

神道研究集録
一一

近世初期民衆思想史研究—「心学五倫書」と「恨の介」

大桑 齐

研究年報（大谷
大） 四三

禁じられた信仰—近世前半期の摩多羅神

曾根原 理

『国家と宗教』

「関左之日枝山」考

〃

研究年報（東北
大 附属図書
館） 二五

日光東照宮の奥院寶塔中神道秘式

菅原信海

天台学報 三四

尼子氏の宗教政策—出雲国一宮制の解体過程との関係を中心

井上 寛司

『尼子氏の総合
的研究その二』

近世真宗の構成と特質—真宗宗教社会史研究の前提

有元 正雄

紀要（広島大
文） 五二

近世における仏教の民衆化（2）俳諧寺一茶の仏教観（前）

早島 鏡正

大倉山論集三一

近世日本における飢饉と仏教

大島 恵昭

論叢（同朋大）
六六

「延命地藏印行利益記」について

圭室 文雄

教養論集（明治
大） 二四三

キリシタン禁制の転換とキリシタン民衆

大橋 幸泰

歴史学研究
六三一

宗門改の制度化とキリシタン民衆—幕藩制国家とキリシタンをめぐって

〃

歴史評論五一二

西国大名の領国経営とキリシタン宗教政策

西村圭子

紀要(日本女子大文) 四一

近世初期における「国家」と「仏法」―「太平記読み」研究序説

若尾政希

『国家と宗教』

幕藩制的秩序についての考察―君主の「器用」をめぐって

福田千鶴

日本歴史五三一

秀吉・家康の神国観とその系譜―慶長一八年―伴天連「追放之文」を手がかりとして

高木昭作

史学雑誌 一〇一―一〇

近世剣術伝書にみられる倫理観―初期から中期にかけて

前林清和

紀要(神戸学院大人文) 五

徳川前・中期の女性観の特質二

佐久間正

紀要(長崎大教養) 三三

常磐潭北の思想―元禄享保期の庶民の思想的可能性

川口高風

日本歴史五二六

諦忍律師と朝鮮通信使

笠原綾

東海仏教 三七

近世の武家の信仰をめぐって―近世前半における幕府・諸大名と伊勢御師

ルイス・ジェイムス

歴史評論五一二

近世日本人の朝鮮観―倭館における公貿易接待の費用を例示として

浪江健雄

年報朝鮮学 二

転封をめぐる思想と実態

中野光浩

白山史学 二八

東照宮信仰の民衆受容に関する一考察

藤田覚

地方史研究 四二―三

鎖国祖法観の成立過程

渡辺信夫編『近世日本の民衆文化と政治』

二

近世中後期の公儀権力と「王覇論」的秩序観

吉田昌彦

歴史学・地理学年報(九州大教養) 一六

伝説・縁起・民衆―ヤマトタケル譚と刈田嶺神社の縁起

平川新

『近世日本の民衆文化と政治』

寺社縁起と伝説の変容―白鳥伝説と近世南奥の民衆意識

田中圭一

日本歴史五三三

村の宗教論

岩橋清美

法政史論 一九

近世村落における村落の変容と家意識―武蔵国多摩郡柴崎名主鈴木平九郎「公私日記」を中心に

井上智勝

紀要(京都市歴史資料館) 九

近世中期における京都近郊神社の動向

木戸政満

地方史研究 四六―六

幕末期の村落における神仏分離と仏教批判について―山城国相楽郡の事例を通して

前田勉

『国家と宗教』

近世大嘗祭観の展開

小島晋治

杭州大・日本文化中心、神奈川大・人文研編『中日文化論』

日本人の中国観の変化―幕末・維新时期を中心に

山口宗之

紀要(皇学館大) 三〇

井伊直弼小伝

榎森進

『近世日本の民衆文化と政治』

日露和親条約と幕府の領土観念

幕府の蝦夷地直轄と宗教政策—蝦夷「三官寺」をめぐる

田中秀和

『近世日本の民衆文化と政治』

明治初期における中央と地方—熊本実学派の思想と行動

花立三郎

アジア文化研究(国際基督教大) 一八

幕末西洋行と中国見聞—二(完)

松沢弘陽

法学論集(北大) 四三—二

日本近代化における啓蒙思想と教育

河原美耶子

紀要(日大教育制度研) 二三

安政五年の三社奉幣(上)(下)

武田秀章

紀要(明治聖徳記念学会) 復刊 六、七

近代日本の教育主義と修養主義—その成立過程の考察

筒井清忠

思想 八一—二

武州における文久三年の草莽の活動と思想覚書

森田武

紀要(埼玉大教育人文社会学) 四—一

「宗教」という訳語

中村元

紀要(日本学士院) 四六—二

公議輿論思想の形成—前提条件の成立を中心に(上)

榎原孝俊

政経論叢(国士館大) 八〇

戦前期の教育と「教育的」なるもの—「教育的」概念の検討から

吉田公平

紀要(広島大文) 五一

神田秀夫著『如来教の思想と信仰』

小沢浩

日本史研究 三六一

明治の陽明学者春日白水について

小島康敬

『国家と宗教』

深谷克己著『近世の国家・社会と天皇』

高木昭作

歴史学研究 六三六

西村茂樹における国家と道徳・宗教

八木清治

〃

源了圓・末中哲夫共編『日中実学史研究』

荻生茂博

日本史研究 三六七

福沢諭吉の廃儒論—内安外競論の提唱

石川一三夫

中京法学 二七—一

近代

明治維新前後の日本人のロシア観

外川継男

ロシアと日本三

福沢諭吉と洋学

長尾正憲

洋学史研究 九

近代日本の韓国認識

朴英宰

ロシアナ五—三

中国における福沢諭吉理解—清末期を中心に

区建英

日本歴史五二五

明治維新論の変遷とその背景

正田健一郎

早稲田政治経済学雑誌 三〇九、三一〇

近代天皇制国家の成立と「啓蒙」思想—森有礼の政教観を中心として

中川洋子

仏教史学研究 三五

一九世紀の極東をめぐる外庄と抵抗—日中比較政治思想史への試み

浅川道夫

国際関係研究(日大国際文化) 一三一—一

中江兆民における民主国の人間モデル—土—について—とくに儒教思想との関わりを中心にして

易素政

史学研究一九六

小野梓の国際政治思想 荻原 隆

論集(名古屋学
院大)社会科学
篇) 二八一四

伊波月城のアジア観―日露
戦後の社会批判の視角 比屋根 照夫

琉大法学 四八

徳富蘇峰の「アジア主義」 中村 尚美

社会科学討究
(早稲田大) 社
会科学研) 三七一二

日清戦争を契機とする徳富
蘇峰の転換について―海軍
力と国際情報への着目 柴崎 力栄

紀要(大阪工業
大) 人文社会
篇) 三六

「エコー」に見る志賀重昂
の日本論(含資料) 福井 七子

文学論集(関西
大) 四一―三

大杉栄における「科学」と
「自由」―明治社会主義と
の関係において 梅森 直之

早稲田政治経済
学雑誌 三〇九・三一〇

八木舟三のアナキズム思想
―反マルクス主義の原理と
その今日的意義 岡崎 正道

『国家と宗教』

田口卯吉序章―「東京経済
雑誌」創刊に至るまで 松野尾 裕

立教経済学研究
四五―三

穂積八束の政教関係論 新田 均

所報(皇学館大
神道研) 四三

新渡戸稲造の「開運論」に
ついて 原島 正

紀要(東京女子
大) 比較文化
研) 五三

皇国史観と革命論―「平泉
澄の変節」拾遺 今谷 明

論叢(横浜市立
大) 四三一―

「近代の超克」の思想―高
山岩男教授の所説をめぐ
って 多田 真鋤

論集(横浜商大)
二五一―二

歴史的限定と場所的限定の
統合―西田幾太郎「私と汝」
を読む 中本 昌年

紀要(富山大
人文) 一八

西田幾太郎とカント 平山 洋

比較思想研究
一八

西田幾太郎「純粹経験」概
念の成立―「直接経験」と
の関係に注目して 石田 慶和

論集(竜谷大)
四四〇

田辺元の宗教哲学(上) 辻口 雄一郎

比較思想研究
一八

初期柳田邦男の宗教者研究
―「文學に現はれたる我が国
民思想の研究」に於ける「公
共」概念について 岩崎 信夫

歴史評論五一二
史潮 三一

近代仏教史学の諸問題―辻
仏教史学について 柏原 祐泉

龍谷史壇
九九・一〇〇

和辻倫理学―戦前と戦後の
間 堀 孝彦

紀要(明治聖徳
記念学会) 復刊
七

祭政一致の構想と国学者の
動向―維新直後を中心に 阪本 是丸

論集(名古屋学
院大) 社会科学
篇) 二八一四

早稲田大学史記
要 二四

大東法学 一九

田中 浩

松野尾 裕

岡崎 正道

梅森 直之

福井 七子

柴崎 力栄

比屋根 照夫

中村 尚美

荻原 隆

今谷 明

多田 真鋤

中本 昌年

平山 洋

石田 慶和

辻口 雄一郎

岩崎 信夫

柏原 祐泉

堀 孝彦

阪本 是丸

紀要(国学院大
・日本文化研)
七〇

論集(名古屋学
院大) 社会科学
篇) 二八一四

大東法学 一九

田中 浩

松野尾 裕

岡崎 正道

梅森 直之

福井 七子

柴崎 力栄

比屋根 照夫

中村 尚美

荻原 隆

今谷 明

多田 真鋤

中本 昌年

平山 洋

石田 慶和

辻口 雄一郎

岩崎 信夫

柏原 祐泉

島根県大田氏物部神社所蔵 明治大嘗之記―解説と翻刻 国家的儀礼空間の創造（講演）	西牟田 崇生	神道学 一五三・一五四 紀要（国学院大 日本文化研） 六九	阪本 是丸	明治初年の国学者の神秩序 構想	桂島 宣弘	『天皇制国家の 統合と支配』 国学院雑誌 九三―八	阪本 是丸	明治初年における国学者の 政治的動向―祭政一致の国 家の構想をめぐって	木野 主計	大倉山論叢三一	修験道令の研究	秋元 行人	神官・教導職分離をめぐつ て	外山 徹	法政史学 十九	神仏分離政策に関する一考 察―近世・近代移行期研究 によせて	大原 康男	紀要（国学院大 日本文化研） 七〇	神道指令と政教分離の諸相	森 章司	大倉山論叢三一	異安心・能登頓成事件の顛 末	斎藤 禎夫	紀要（国学院高） 二四	明治初年における仏教勢力 回復の様相	幡 鎌一弘	神道宗教一四八	大和国における神社制度の 展開―明治四年から明治十 五年における	水野 了史	国史学研究十八	「敬神愛国」条項成立の思 想的宗教的背景についての 一考察	三好 祥子	お茶の水史学 三五	明治初年のキリスト教政策 の転換に関する一考察		
明治以降の土御門系陰陽師 清沢満之の回心に関する一 考察	木場 明志	宗教民俗研究二 研究論集（相愛 大）八	北野 裕通	「清沢満之」の信念につい て	樋口 章信	親鸞教学 五九	藤原 正寿	清沢満之における宗教的実 践とその意義について	藤原 正寿	親鸞教学 六〇	内村鑑三の死生観	道家 弘一郎	内村鑑三における「内と外」 の論理	伊東 昭雄	論叢（横浜市立 大）四三―一	植村正久「真理一斑」の機 構	榎林 滉二	研究紀要（広島 女子大 文） 二七	日露戦争後の宗教政策と天 理教―「三教合同」政策を めぐって	李 元範	宗教研究 六六―三	大正期の天理教における天 啓者待望	弓山 達也	神道宗教一四四	賀川豊彦の協同組合保険へ の軌跡と論理―神の国運動 へ、そして出発	本間 照光	研究年報経済学 五三―四	日本のキリスト教指導者佐 藤定吉の神道理解	岩 瀬 誠	国学院雑誌 九三―一	近代における真宗の対アジ ア布教の展開過程	小木 場 明志	紀要（大谷大 真宗総合研）九	遠藤 華 淳		

近代の真宗の海外における伝道組織の研究

小島 勝

紀要(龍谷大
仏教文化研)
三一

仏教者における戦争責任
—真宗本願寺教団を中心として—

毛利 悠

歴史評論五〇九

日本統治下台湾のキリスト教

森山 昭郎

紀要(東京女子
大) 比較文化
研) 五三一—二

キリスト教と戦争責任—日
本基督教団『戦争告白』
の評価と問題点

岩井 健作

歴史評論五〇九

新宗教の戦争「懺悔」—靖
国問題とアジアからの視
点

廣橋 隆

歴史評論五〇九

アジア主義の系譜

中村 義

紀要(東京学芸
大) 社会科学
四三

毛利柴庵に於ける明治社会
主義の受容—足尾鉍毒問題
を契機として

堀口 節子

龍谷史壇
九九・一〇〇

大逆事件とThe People

山泉 進

教養論集(明治
大) 二四三

明治末期社会改良論の特質
—堺利彦と小河滋次郎の
「家庭改良論」

篠崎 恭久

史境 二五

普選期の安部磯雄—選挙組
織と資金

大西 比呂志

早稲田大学史記
要 二四

大正「社会」主義と初期愛
郷会—農村の自己改新と青
年たち

池田 元

年報日本史叢
(筑波大) 歴史
人類学系) 一

水神社の創立と本願寺教団
—真宗信仰の性格をめぐつ
て—

赤松 徹真

論集(龍谷大)
四四〇

戦前期の海外雄飛と思想的
系譜—千葉豊治の足跡と著
作をめぐって

木村 健二

研究年報経済学
(東北大)
五三一—四

近代天皇制下の西本願寺教
団と「婦人教会」・「女子
教育論」

赤松 徹真

龍谷史壇
九九・一〇〇

朝鮮総督府の宗教政策
近代日本における「国体」
の起源—社会調査不成立の
土壌

平山 洋
小路田 泰直

『国家と宗教』
部落問題研究
一一五

近衛文麿の政治理念と現実

伊藤 勲

法学新報
九八一—二・一二

石原莞爾と大東亜戦争

清家 基良

軍事史学
二七一—四

植民地なき帝国主義—「大
東亜共栄圏」の構想
占領期日本の民衆意識—戦
争責任論をめぐって

Peter Duns
藤原 帰一 訳

思想 八一—四

漱石と儒教—作家以前の時
代を中心に

水川 隆夫

研究紀要(京都
女子大) 宗教
文化研) 五

石川啄木における朝鮮
日本の近代文学に見る朝鮮
像

池田 功
権 升 赫

文芸研究 六七
日本文学研究
(大東文化大)
三一

宮沢賢治思想の史的理解的
方法について—賢治最晩年
思想の重要性

原 尻 英樹

調査と研究(長
崎県立国際経済
大) 国際文化研
済研) 二三—一

森山啓の社会主義リアリズム論—プロレタリア文学運動と人民戦線に関する一考察

桑尾 光太郎

学習院史学三〇

大久保政権と立憲政体構想

辻岡正己

研究論集(広島経済大) 十五―二

明治初年の「尊攘派」について

高木俊輔

茨城県史研究 六八

千本秀樹著『天皇制の侵略責任と戦後責任』・山田朗著『昭和天皇の戦争指導』

岡部牧夫

日本史研究 三五六

国家・家・近代天皇制—近代国制の否定と継承

鈴木正幸

歴史評論五〇四

補遺

明治十年代の民衆運動と近代日本

安丸良夫

歴史学研究 六三八

明治期日本の「西洋哲学史」の移入史

柴田隆行

白山哲学 二五

近代日本における「士魂商才」論—竹越三又『磯野計君伝』を中心に

西田毅

近代日本研究八

自由民権期における在米・在布日本人の権利意識

新井勝紘

研究報告(国立歴史民俗博物館) 三五

戦略としての女—明治・大正の「女の言説」を巡って

牟田和恵

思想 八一二

近代における天皇号について

島善高

早稲田社会科学 四四

近代における後醍醐天皇像

岩井忠熊

『天皇制国家の統合と支配』

家族国家観による「国民道徳」の形成過程(五)

三井須美子

研究紀要(都留文科大) 三六

明治前期の政教関係と井上毅—キリスト教・仏教の処分をめぐる

阪本是丸

悟陰文庫研究会編『明治国家形成と井上毅』

近代日本社会と報徳思想

見城悌治

ヒストリア 一三七

自由民権運動と伝統思想

稲田雅洋

歴史研究 三八・三九

自由民権家・桜井静

久留島浩

千葉史学 二〇



発刊の辞

東北大学法文学部の開設とともに、故村岡典嗣氏を初代の主任教授として日本思想史学専攻が設立せられたのは大正十二年のことである。

昭和二十一年の春、村岡氏が定年退官せられて後、後任者の得難きままに九年余を経て、昭和三十年に故竹岡勝也氏が就任せられた。しかし竹岡氏も在職二年にして定年退官せられ、一年を経て昭和三十三年に私が両教授の芳蠟をけがすことになった。

本専攻の学部（第三・四年）は「日本思想史学専攻」として文学部史学科に属し、大学院（修士、博士課程）は「国文学国語学日本思想史学専攻」として文学研究科に属している。日本思想史学の独立の講座を基礎として、日本史（国史）専攻、乃至は国文学専攻または倫理学専攻とは別に、独立した「日本思想史学専攻」が設けられているのは、東北大学のみである。

以上の如き本専攻の歴史と現状に鑑み、関係者相い諮って、専攻専属の機関誌として、本誌を発刊し、その研究・教育の状況を学の内外に紹介することにした。大方の御援助を仰ぐ次第である。

昭和四十二年三月

石田一良

日本思想史研究

第二十七号

平成七年三月十五日 印刷

平成七年三月二十五日 発行

編集代表者 玉 懸 博 之

仙台市宮城野区日の出町二丁目四十二

印刷所 (株) 仙台共同印刷

仙台市青葉区川内

発行所 東北大学文学部

日本思想史学研究室

